

話を聞けるような体制をつくっていただきたいと思います。糸魚川市でもゼロ歳から18歳ということで頑張っておりますが、なかなか所得の低い方は保育園に預けたり、そういうこともできないというふうに思いますので。今あれですかね、低所得者の場合は、何か免除みたいなのはあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、保育料の関係だというふうにお聞きしてお答えいたしますけど、現制度では、保育料は所得に応じて段階的に軽減を図っております、例えば非課税の母子世帯ですとか、第3子については無料としております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

もう少し拡充できれば一番いいんですけど、なかなか難しい問題もあるかと思っておりますので、今後、拡充に向けて頑張っていただきたいなど。

最後に6番目なんですが、ちょっと時間がないので、知事は、人づくりは新潟県が持続ある発展をするための礎であり、根幹であると述べております。そのためには、児童生徒の悩みを適切にすくいあげ、教員一人一人が多忙化解消のために取り組んでいかなければいけないというふうに言ってますので、糸魚川市も多忙に取り組んでいただきたいと思っております。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で中村議員の質問が終わりました。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。〔17番 渡辺重雄君登壇〕

○17番（渡辺重雄君）

清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

今回は、糸魚川市の地域資源の現状と活用、情報発信についてであります。

糸魚川市のホームページなどによる糸魚川市の紹介では、「面積は東京23区よりも広く、面積全体の9割が森林原野であり、海岸、山岳、溪谷、温泉など変化に富んだ個性豊かな自然に恵まれております。また、森林資源やヒスイ・石灰石等の鉱物資源や水資源など地域資源が豊富で、フォ

ッサマグナについては日本列島生誕の謎を秘めた世界的な学術資源となっております。」と始まり、ヒスイ文化や伝統芸能に関して、さらに相馬御風を筆頭にした著名人と、自然資源、産業資源、観光資源、人的資源なども含め、歴史などの沿革もあわせて紹介されています。

資源豊富な糸魚川市ということですが、資源とは、自然から得る原材料、そして広く産業上、利用し得る物資や人材とも言われており、資源の範囲はそれを利用する人間の側の社会構成や科学技術の発展度に応じて、逐次拡大されてきているようで、糸魚川市の資源と言われているものについて、資源としての価値をはかってみる必要を感じます。

特に、生かしてこそ資源であることからすると、面積全体の9割を占める森林原野は、今後どのような利活用があるのか、現状を点検し課題を抽出し、具体的な活用の方策を考え、資源として、もっと情報発信できるよう取り組む必要があると考えます。

糸魚川市の地域資源に関する取り組みとしては、平成30年度予算の重点施策には「地域資源と人財を活かすまちづくり」が掲げられ、関係する幾つかの事業も実施されており、注目し、期待をしているところであります。

今回は、糸魚川市における各種の資源がどのような状態で、その活用はどうであるか、今後どのような活用が見込めるのか、そして、情報発信により、さらなる価値を創出できるのかななどを、数ある資源の中から幾つかについて伺います。

(1) 森林原野、農地など自然資源の現状と活用についてであります。

市全体で面積の9割という広大な森林原野は、かつての資源としての価値が薄れ、それとともに個人の所有地においては、現状把握すらなかなか困難なところもあります。資源の価値以前の深刻な状況も見聞きする中で、個人的な問題を越えたところでの対応が必要となっていると考えており、行政において状況を確認することと、資源として生かすための新たなプロジェクトを立ち上げるなど、活路を見出すための新たな展開に期待をしますが、今後の方針と取り組みを伺います。

(2) 観光資源の新たな視点についてであります。

最近の入込客などから見て伸び悩みも見られることから、素材である資源の生かし方などの工夫が欲しいと思います。DMOやインバウンドの影響からか、最近の観光は「あるもの」ではなく「つくるもの」「磨くもの」とも言われており、平成29年度の施策の中に、「観光素材の磨き上げ」もありましたが、資源の魅力をしっかり磨き、観光客のニーズに応える取り組みが行われているか伺います。

(3) 人材育成、人材確保など、人的資源の充実についてであります。

かつて糸魚川市の文化や歴史をつくった先人は、今も糸魚川市を語る際に登場し、その評価は高いものがあります。これからも、経済や文化、技術の発展には人的資源が最も重要であり、教育分野、企業分野を初め、あらゆる分野で人材育成と人材確保を図り、流出を抑えるためには人材を生かす環境の整備も必要と考えます。各分野における人的資源に対する取り組みについて伺います。

(4) 6次産業化、農商工連携、産学官による資源活用についてであります。

地域資源を生かした農林漁業の産業化を進め、地域産業の活性化を図り、雇用機会の創出を図る新たな成長戦略としての6次産業化、中小企業者と農林漁業者が有機的に連携し、そ

それぞれの経営資源を有効に活用する農工商連携、さらに産学官がそれぞれの長所を生かし、連携して実用化や商品化をする取り組みも行われ、期待度は高いものがあります。各取り組みの実績や効果、課題、今後の展開を伺います。

(5) 情報発信の手法と課題についてであります。

各資源は地域にあっては利活用した自給自足の時代から、今は広く産業上、利用する物資や人材であり、地域資源を活用した商品開発やマーケティングにより、また、資源を利用する人間の側の社会構成によって、さまざまな価値を創造できることから、情報発信が非常に重要と考えます。今後、マーケティングの支援とあわせて情報発信の取り組みの強化を願い、手法と課題について伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、31年度からの森林経営管理法の施行を契機と捉え、さらなる木材利用の拡大と広い視点での森林原野の活用について、県及び関係団体とともに取り組んでまいります。

2点目につきましては、当市には多様な観光資源があり、より魅力ある商品としてブラッシュアップしてまいります。今後も観光客のニーズに沿って、わかりやすい情報発信を行うとともに魅力の向上を図り、交流人口の拡大に努めてまいります。

3点目につきましては、ふるさと糸魚川の新しい時代を切り開き、これからの担う人材を育成するため市民一人一人がともに学び、心身ともに健全に成長する人づくりを各分野の方々と連携して取り組んでまいります。

4点目につきましては、これまでの取り組みから新商品開発や雇用創出、当市の認知度向上などさまざまな効果があらわれております。今後につきましては、新たな担い手とさらなる流通システムの確保が課題と考えており、高校や関係団体との連携強化を図り、産業界の活性化に取り組んでまいります。

5点目につきましては、これまでお答えしてきたとおりさまざまな資源があり、これらを磨き、生かすべく取り組みを展開しているところでありまして、一定の成果を上げております。

一方で、時代の変化に応じた商品ニーズ等の把握は、重要なことであると考えており、現在進めているシティプロモーションの取り組みもイメージ調査などにより、戦略策定を通して進めているところであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。それでは、2回目の質問で少し詳しくお聞きしたいと思っております。まず、1点目でございますが、森林原野、農地などの自然資源の現状と活用でございますが、とにかく全市の面積の約9割が森林原野というからには、生かさなければならぬという思いでありまして、質問をさせていただきたいわけですが、まず、糸魚川市の森林の資源価値、これおよそどれぐらいというふうに見ておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

杉の人工林でお答えさせていただきたいと思っております。

森林簿から杉材の量を推計しますと大体約426万立方メートルであります。丸太の平均卸売価格と、これ立法当たり4,600円という数字なんです、それを掛けますと約273億円という数字が出ます。今お示しをすれば、この273億円であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

273億円、これが多いか少ないかは別としまして、今まで見当もつかなかっただけに目安になりました。1回目の答弁にもありましたけども、ことしの5月25日に新たな法律であります森林経営管理法が可決されたわけですが、これによりまして来年、平成31年の4月1日から新たな森林管理システムがスタートするということでありまして、一般質問の通告後に詳細を見たわけでございますが、非常に懸念していたかなりの部分が解消されるのではないかなというふうな思いをいたしております。詳しくは、またスタートしてからお伺いしたいと思うんですが、今日は、この森林管理システムの概要、これをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

新たな経営管理システムについては、国内の森林の現状において人工林が木材として活用できる適齢期を迎えていること、また、全国の人工林において、手入れが行き届かない状況であること、これらの課題解決のために創設されたものだというふうに理解しております。

具体的な制度としましては、森林所有者の森林の適切な管理の責務を明確にする中で、市は管理できない、市に預けたいと希望する森林所有者から人工林を中心に預かることができる。その預かった森林で希望する林業経営者に再委託をして経営をしてもらうことで適切な森林管理を行き届かせようとする制度であるということでありまして。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この民有林の所有者でありますけども、市内・市外の区別、さらに所有者の実態といいますか、森林所有者へのアンケートとか実態調査というのは、なされておるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

全体への調査というのは、まだ行っておりませんが新たな経営管理制度を踏まえて生産森林組合12組合あるわけですが、これを対象に31年度からの所有林経営・管理に対するアンケートを実施しており、現在集計中であります。今後、森林経営管理法、新たな森林経営管理システムの中で計画的に調査を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

とにかく実態を知ること一番大切だというふうに思っております。林野庁の資料では、現場では所有者が不明であることなどから管理ができない森林も多く見られる実態にあるというふうには言っているわけですが、糸魚川市の場合はいかがですかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

当市においても同様であります。31年度から始まる林地台帳の整備と森林経営管理制度の運用によりまして、情報を精度高め、所有者の実態把握に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この今、現段階で所有者不明の森林というのは、どれぐらいあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

森林簿のデータによるところによりまして不明となっております森林については、2,874件、215ヘクタールであるというふうに把握しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

かなりあるんですね。実は、私のところも親から受け継いでいる林がかなりあるんですけども、木を植えて、育てて、それを伐採して販売すると、この一連のサイクルなんですけども、本来であれば1回ぐらいは伐採して、そして植えるという作業をしてるはずなんですけども、その基本サイクルすら一度も経験してないわけなんです。この辺、所有者の認識にも課題が出てくるんじゃないかと思うんですが、この辺をいかが捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

木材価格の低迷によりまして、財産としての価値を見い出せないという状況であるというふうに考えられます。所有者はそれによって森林から意識が離れてしまって、これについては全国的な課題であるというふうに考えております。31年度から施行する森林経営管理法については、こういった課題解決をする1つの手法だというふうに考えておりますので、これらの取り組みによって着実に対応していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長のおっしゃるとおりでありまして、現在ほとんどの所有者は、山林は所有するだけで林業に興味がないというふうになってしまっているんですけども、ただこれでいいんだろうかというふうなことで新たなプロジェクトを組むなりして、有効に活用する方法というのを議論する場が欲しいと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

今現在、関係団体でありますとか、森林環境税の使途も含めて協議をしておるところであります。今後については、もう少し参集いただく範囲を拡大して、意見交換を行うこととしております。豊富な森林の活用、そして木材需要、価格向上の課題解決に林業界全体で取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ぜひお願いしたいと思います。

それから、利活用に関して林道整備という問題もあるんですが、この林道基幹道放山線ですかね、

これに関してですけれども、起点が早川の太平から終点が能生の西山と。延長が9,410メートルということなんです、いろんな目的を持って開設に向けて工事が行われているわけなんです、着手してから相当期間を要しておるんですが、この見通しはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

林道放山線につきましては、県営事業として平成6年に事業採択をされまして、糸魚川工区については平成7年から、能生工区については平成13年から工事に着手しております。29年度末現在の残っておる計画については、2,902メートル、30%となっております。冬期間の工事がしにくい状況というのもありまして、今ご指摘のように相当な期間を要しておりますけれども、県のほうは、引き続き開通に向けて取り組んでいただけるということでもありますけれども、じゃあいつ開通になるのかというのは、まだはっきりとした見通しでご説明できる段階でないということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

問題は、相当人里から離れたところでの開設であるわけで、しかもかなりの部分が雑木林というふうに見受けておるんですけれども、この路線の利活用、先日、能生地域で上南地区の区長さんなどと懇談する機会があったんですけども、この雑木の利用に関して話をしておったんですけども、クラフト作家が欲しがっている、この高原用の素材として雑木、それから、そして炭焼き、さらにキノコ原木、この点に関しては、どのように考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

放山線の利用区域から出されるブナを初めとする広葉樹の利用については、今ほど渡辺議員からお示しがあったということについても取り組めるというふうに理解しております。現在、関係機関、団体と協議・研究を重ねておりまして、菌床キノコなどに、これ「おが粉」と呼んでおりますけれども、そういう可能性についての研究・検討を進めております。森林資源の活用については、事業者はもちろんですけれども市民の皆さんから広く関心を持っていただきたいと。そして林業振興のために広く取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

このときこの上南地区の皆さん、非常に関心を示されておりまして、権現荘近くに炭焼き小屋を

設けて、当初は試験的に炭を焼いて、それから技術の習得と体験観光にも生かして、さらに権現荘シャルマンスキー場と連携して、相乗効果を上げたらどうかというような発展的なお話もいただいとるんですね。非常に期待感を持って、私も聞いたんですが、しかも熱意を感じたところでありませう。この実現に向けた取り組みというのは、行政と一体になって進めたらおもしろいという言い方は語弊もありますけども、非常に効果が上がるんじゃないかというふうに思ったんですが、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

放山線につきましては、今非常に進捗がご指摘いただいとるんですが、時間がかかっております。しかし、もうある程度、峠のところへ来てるのではないかなというのを感じてる次第でございます。もう早川のほうからは、能生の境界の近くまで行ってありますし、能生のほうからのほうは、かなり地形的にも緩やかなもんですから、そんなにかからないのではないかなというような気がいたしております。そのようなことで、かなり先が見えてきている部分がございますし、特に能生のほうからにおきましては、雨池周辺の環境がいいもんですから、いろんな面で利活用ができるのではないかなと思っております。ロケーションも最高ですし、かなり期待ができるものと思っておりますので、そろそろそういったところも視野に入れながら、ただ道路整備だけではなくて、そういう利活用の面からもやはり検討に入っていてもいいのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。利活用に関して、この今の炭焼きの関係なんですが、魚沼市、非常にこれ先進地なんですね。炭焼き体験の1日体験コース、それから半日体験コースというのを実施して、毎月実施しております。非常に盛況で、10月はキャンセル待ちというようなことだそうなんですが、農林課の木材推進係の方に先日お聞きしてみたんですが、最近、市外・県外の方も非常に多くて、実際に炭焼きを始めた方も、いわゆる転居してきたんでしょうね、炭焼きを始めた方もいて、この製品は市内の業者を通じて、全量順調に消化できてるというような話もお聞きしております。ぜひ一度、先進地視察をしていただきたんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

魚沼市では、炭焼きに対して行政も積極的に取り組んでいるというふうにお聞きしております。今のお話から大変参考になる内容であるというふうに考えますので、実際に視察に取り組んでみたいというふうに考えております。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ぜひお願いしたいと。利活用に関しましては、一例を申し上げたわけですが、ほかにもいろいろお話があるかと思えます。

それから、注目しておりました森林環境税、これ平成36年度から施行されますけども、実際には来年度から森林環境譲与税ということで、市町村には間伐、人材育成、担い手確保、木材の利用促進、普及啓発などに対して、市有林の人工林面積、林業就業者数、人口により案分するというふうに聞いているんですが、これどれぐらいの額が当てにできるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

今現在、収集できる情報から試算させていただきますと、平成31年から33年の3カ年間ににおいては約1,500万円程度と、毎年度1,500万円程度というふうに試算をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

意外と額が小さい気もするんですけども、使途の公表が義務づけられるというふうなことなんです、このことによりまして森林整備計画、今ある、これの変更とか、各種の対応に特別影響が出てくるんでしょうかね。また、森林環境税が施行されることから、森林経営管理法ですか、来年から始まる新しいシステムができるんですけども、この環境税の関係があつてのことなのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

森林整備計画の変更は、これによって特に必要ないというふうに考えております。国民全体で森林を支える仕組みとして、森林経営管理制度というのが創設されたものであります。その財源としての森林環境税、これを当てるということであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今度の森林環境税、納税義務者から一律1,000円いただくというわけですから、従来の対応だけでなく、糸魚川市ならではの新しい取り組みを期待したいと思います。

それから、近未来的な話で恐縮なんですけども、木材からセルロースの繊維だけを抽出できれば、さまざまな応用ができるというふうなことで、経済産業省なんかも言っておるわけなんですけど、担当課のほうで手元に資料、あるいは説明できるようなことがあったら、お話しいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

セルロースファイバーにつきましては、軽くて強いバイオマス素材として、また将来的にはカーボンファイバーにかわる素材ということで、研究が進められておるものというふうに聞いております。現在は実証生産まで進んでおるようであります、自動車の車体、それから建材等に利用されることになれば、木材の需要もふえるというふうに期待しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

いろいろ質問させていただきましたが、来年4月にスタートする森林管理システム、これに期待をいたしております。

それから次に、農地に関してでありますけども、1点だけ、中山間地の耕作放棄地の利活用に関して、関係機関でかなり研究されてるようでございますが、新たに提案できるような取り組みがあるかどうか、これ1点だけお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

当市の中山間部におきます耕作放棄地の拡大については、大変残念なことですけども、現実的な事象となっております。その中でも糸魚川薬用植物栽培協議会が能生地域で耕作放棄地を利活用して、今年度より薬用植物の試験栽培に取り組んでおるといふ新しい事例がございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それでは次に、2点目の観光資源の新たな視点についてでありますけども、まず、糸魚川市の現在の観光資源を踏まえた場合ですけども、現時点でどれぐらいの観光客を集客可能なのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

どれぐらいの集客が可能かということでございますけれども、総合計画における指標としましては、平成31年度に入込客数を250万人、また35年度に270万人と想定しているところでございます。最近ちょっと新幹線開業後、入込客が減少傾向なことから、またこれらも含めまして、入込客数の増加に向けて取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

かつて、平成13年に約300万人、入込客があったということもあったわけですが、一度この糸魚川市が持っている観光資源の潜在能力、これをはかっていたらどうかと。それによりまして、伸ばせる部分、あるいは欠けてる部分、さらに可能性の薄い部分、これらが見えてくるんじゃないかなというふうに思っておりますので、戦略を描くにも描きやすくなると思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市の資源の伸ばせる部分としましては、ユネスコ世界ジオパークのブランドを活用して、ヒスイであるとか、ヒスイ峡であるとか、石のまちとしてのオンリーワンというところが伸ばせる部分であると思っております。シティプロモーションとしましてもいろんな調査をしておりますので、これらも踏まえまして、今後、対応をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、観光資源の新たな視点ということでは、糸魚川市として観光素材の磨き上げ、これを掲げておるわけですが、1回目の答弁でブラッシュアップという言葉も使われておりますけれども、具体的にはどういうことをされているのか、今までの手法と違うところを少し紹介していただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

例えば海の魅力アップというところといたしましては、海水浴での誘客はもちろんなんですが、それにヒスイ探しですとか、そういうものを加えた新たなものをPRしていくとか、あと例えば魚に例をとりますと、単に素材としての食を提供するだけではなくて、あわせてその背景にある歴史ですとか文化ですとか風土なりのストーリーも合わせて紹介する。あと加工や調理の方法などを見せ方も変えまして、そのものが持つ付加価値を高めていくということが、このブラッシュアップに

つながるものと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足といいましょうか今させていただきますが、やはり時代も変わってきとるところを捉えた中において、今ほど海水浴と言いましたが、海水浴客もこれからはどのような海水浴になっていくのかとか、また、冬もスキーは今までどおりでいいのかとか、やはりそういったところをもう一度、関係者としてしっかりとその辺論議しながら、その最先端といいましょうか将来性を見ながら行かなければいけないのではないかな。なかなかことしの夏みたいに暑ければお客さん来るかという、なかなか来ない。当然、冷夏では来ないわけですが、そういったところを考えたときに本当の魅力とは何かというのをもう一回、関係者と話をしながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。本当に先を見据えて、本当に見直しなり対応を考えて、やっぱりいただきたいというふうに思います。それから、具体的には見せ方等についての工夫をするというふうなことでありますけども、能生の弁天浜の恋する灯台モニュメント整備、これなんか本当に既存の観光資源とモニュメントというほかのツールを組み合わせたというふうなことで、相乗効果を引き出すということでは、非常にいい事業かなと思ってるんですが、問題はつくった後、思惑どおりにいってるのかどうか、これちょっとご説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

能生の恋する灯台につきましては、ロマンチスト協会からそういう付加価値をいただきまして、新たな売り出し方ができるのではないかとというふうに考えております。現在、能生の商工会で、この灯台を使いながら地域振興策といえますか、地域経済にいい影響が与えるべく取り組みを検討しているところでございますので、それらと連携を図りながら取り組みを進めてまいりたいと思っておりますし、周辺にはマリンドリーム能生ですとか、うまく、何といえますか集客できる施設もございまして、それらと連携させる中で、うまく相乗効果を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

資源を磨くということは、私なりに考え、極論しますと資源を価値に変えるというふうなことではないかと思うんですが、その辺を実感するような取り組みというのは、ほかにございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

お答えになるかどうかちょっとわかりませんが、この土曜日から宝石の国展というものが始まっておりまして、これは石を題材にしたアニメーションといいますか漫画でございますけども、それらのファンといいますかコアなファンが多いもんですから、それらをうまく市内に回遊させる取り組み等がそういうものに当たるのではないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、新たな観光資源を発掘する方法、個人で行っている取り組みなんかにも非常に注目するような取り組みもあるわけですが、それを観光協会等の取り組みに発展させるというふうなことも考えられるわけなんですけども、その際の方法として、随時アイデアを受け付けられるような体制、こういうものも必要であるわけですが、現体制はどうなのか、考えられる体制づくりということになるのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、県の糸魚川地域振興局の皆さんとかの観光協会の皆さんと定期的に地域活性化に向けた意見交換会といいますか話し合いをしているところがございますし、そういうところからもいろんなアイデアが出てまいっております。また各種団体等に出向いて、総会なり会合等に出向いておりますけども、そういう中からアイデアをいただく中で取り組みを、新たな取り組みを発掘したり、また拡充したりしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

よろしくお伺いしたいと思います。

では、3点目の人材育成、人材確保、人材資源の充実について伺いたいと思うんです。

市民の質は、市民の繁栄と成長に重要な影響を及ぼす。こういうふうに言われているところではありますが、今、市では人口減が大きな問題になってるわけです。それと同等といいますか、それ以上かもしれないんですけども、この市の人材、言い換えれば市民性の向上ですかね。大変重要なんですけども、この市民性を向上させるという点ですけども、行政サイドではどのように考えており

ますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

市民の住民の質を向上させるということになります。やっぱり基本は、住民の皆さん一人一人が地域課題を自分ごととして捉えていただくと。地域課題に向けてどう解決するかという、行動に向けてもらうというのが重要なことだというふうに思っております。やっぱりこのためには、市民一人一人に好奇心、やっぱり興味を持ってもらう、関心をもらうというのが大事に思っておりますので、そのためのやっぱり学び、学習、こういったところの取り組みが必要であるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長の答弁にちょっと通ずるようなことかと思うんですが、この人的資源であります市民の質を向上させるものは何かと。いろいろあるわけですが、1つは有能な人材は、挑戦の機会がなく、何かを達成したり成果を上げたりすることのできないところにはとどまらないというふうに聞いておるわけなんです。若者の流出というものを考えたときに、この点を非常に重視しておるんですが、糸魚川市の現状、若者の流出に関して、これとのつながりみたいなものを考えたことがございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

まず、若者が活躍できる環境をつくるというのは、議員の考え方と一緒にあります。本当に重要なことであると、まず思っております。まず、そうしたやっぱり中で起業、起こす業ですけども、起業ですとか創業支援とか、あと資格取得の助成、あと若者による地域活性化ですとか交流といった環境で、やっぱり若者がチャレンジできる環境整備ということにまずは市のほうでも取り組んでおりますし、また一方では、これから社会へ出ていくというのは、高校生ということになりますけども、市内の高校と連携をして、特に市内の企業のことを知ってもらったりとか、その企業で活躍する人材との交流、こういった取り組みを市のほうでは進めていっておりますし、これからは環境整備に向けてのチャレンジというものはしていかなきゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

文部科学省においては、地方創生に合わせて、地方創生を担う人材の育成に向けて、小中学校において地域を理解し、愛着を持つ人材の育成、それから職場体験活動など、キャリア教育等を実施するというふうには言っているんですが、この市内の小中学校の職場体験活動、キャリア教育の実態というのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

職場体験活動ということでありましたら、小学校、主に4年生において職場見学に出かけております。地域の商店、駐在所、農家等々に、ことし出かけて行って仕事の話聞いております。5・6年生では、親の職場を訪ねたり、地元の企業を訪ねたりするという活動を行っております。中学校2年生におきましては、5日間の職場体験活動を行っております。

それから、キャリア教育の実態ということになりますと子ども一貫教育において、自分に自信を持ち、糸魚川への愛情・愛着が高まる子の育成というのを目標に掲げております。カリキュラム上のさまざまな場でキャリア教育を実践しており、先日、結果が出ました全国学力学習状況調査の質問紙調査において、小学校では地域の行事に参加する地域を調べる活動をしていると答えた子供、中学校では地域行事に参加している。さらに地域について、よくするために考えていると答えた子供が、いずれも全国比で10ポイント以上、単位高い数値を出しておりますので、引き続きキャリア教育の推進してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ぜひお願いしたいと思います。この地方創生総合戦略、これ精力的に取り組んでいただいているわけですけども、本当に実務的な事業たくさんありますよね。ただ、それを受けとめる組織や人材、いわゆるリーダー、それから各事業に手を挙げたり踏み込める人材、これを育成することから始めなきゃならないところも、この優先度を高める必要があるんじゃないかなというところも時々見受けているんですが、その辺はいかがですかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに人口減少、それから人口減少社会の対応が本当に急いで進めなきゃいけないというふうに思っておりますけども、その中でも次世代を担う人材の発掘と育成は、同時に進めていかなければならないと思っておりますし、また、重要な課題だというふうに取り組んでおります。総合戦略の中でも非常にたくさんの事業が羅列されますけども、その中でも特に人材育成の的を絞ったような取り組みで精力的に進めていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

かつて若者会議の創設をお願いし、チーム糸魚川の中に設置をしていただいておりますけれども、この若者会議の現在の役割と活動の一端をちょっと紹介をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

チーム糸魚川の取り組みといたしまして、平成28年度からなんですけれども、特に若者が暮らしやすいまちづくりということをテーマにしまして、各団体から選出された若者18名によりましてワークショップやグループ討議などを行って、事業を進めてまいりました。その中から、若者が気軽に集える場の設置ですとか、あと起業による仕事づくりでU・Iターンを促進する取り組み、そして高校生に多様な生き方を体験してもらうために企業と連携したキャリア教育を推進すると、こういった取り組みがなされてきております。その中からは、特に起業に関しては、一部ことしも事業化に向けて取り組んでる部分もありますので、やはりこういう若い人たちからの意見というのは非常に大事だと思います。また、これからもチーム糸魚川に限らず、いろんな事業をやっておりますので、全庁を挙げて若者からの提案というものを何とか事業化・具体化をしていくような取り組みは、当然必要だというふうに思っておりますし、進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

大変期待しておりますので、よろしくお願いします。

それから、先月、新聞報道にもありましたし、先日の保坂議員の一般質問にもありましたが、来年度から文部科学省で公立高校を核に地域人材を育成するモデル事業を始めるということなんですけれども、このモデル事業の内容を少し紹介していただきたいことと、実際に糸魚川市としては、この事業に手を挙げるんでしょうか、その辺もお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

高校を核とした地域人材の育成につきましては、それを進めたいということで産学官推進企画幹の採用を部内で検討しておりました。このような中で、今、渡辺議員おっしゃるとおり国のモデル事業の件が新聞報道されております。このモデル事業の紹介をということですが、文部科学省が公立高校を核に地域を支えていく人材を育成するためのモデル事業を始めるというものであります。



高校が地元自治体や企業などと緊密に連携した推進体制づくりを促し、地域振興に関する実践的な事業を展開、進学や就職時の地元離れを食いとめるなど、高校を起点とした地方創生との位置づけの事業であります。現状では、国からの詳細情報はありますが、通知があり次第、手を挙げられるように準備を進めているところであります。

なお、この件につきましては、県の教育委員会とも十分協議、そして連携していく必要があるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今ご説明いただいたように、この事業は、人口減に悩む地域を中心に全国から公募をして、10校から20校選定するというふうに書かれているんですが、この高校発の地方創生ということで、この選定される、いつごろこれわかるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

8月2日付の新聞報道では、10校から20校選定というふうにあったんですが、その後、また改めて8月28日付で50校の指定を見込んで、関連費用を来年度予算の概算要求に計上する方針との報道がなされております。この内容からしますと、新年度になってからの事業開始ではないかというふうに思われます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この事業に手を挙げるということは、糸魚川市としてこの地域を支えていく、この人材を育成するという重要なミッションを国の事業の中で明確にすると。さらに全国のモデルということですから、中身と成果を大きな期待を寄せるわけですけども、実際に選定された場合の体制、これ大丈夫なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

この事業について、ぜひとも選定されるように取り組みたいというふうに考えております。産学

官推進企画幹からは、教育委員会事務局関連では1つとして高等教育機関の誘致の可能性調査、それから2つ目に、子ども一貫教育におけるキャリア教育の連携ということで、この中で魅力ある高校づくりの取り組みを進めてもらっております。今ほどご指摘のありました推進体制の強化については、必要というふうに認識しておりますが、これらの取り組みが本格的に動き出すまでは、現体制の中で連携しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この人材発掘と人材育成、人材こそ地域資源、あるいは地域資源の究極は人というふうに言われとるわけで、この事業が選定されることを願っております。

次の4点目の6次産業化、農商工連携、産学官による資源活用についてであります。平成23年の3月1日に6次産業化法が施行されたわけですね。当時、農林水産省では農林漁業に後継者を呼び戻すための起爆剤になるものであると言っていたんですが、この国全体を見た場合、7年たっておるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

6次産業化につきましては、農林漁業者等の所得の確保でありますとか、食糧自給率の向上に寄与するものとして、現在、国なり県で取り組みを行ってきております。当市におきましても、6次産業的な取り組みがふえつつありまして、今後の機運の高まりというのを感じております。さらなる振興のために専門家のサポート体制とか、加工販売に係る支援に努めながら6次産業化の振興に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

市として、平成23年の私の一般質問に多様な農林水産資源を有していることから、6次産業化や農商工連携は地域づくりの大きな要素となると考えているということで、農業後継者の確保と中山間地の振興に特につなげていきただというふうに言っていたんですが、その点についてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

単に生産して販売するだけでは、農家所得の向上には結びついていきません。生産物の加工だと

か、付加価値をつけた販売などを推進していく。これによって農業後継者の確保、そして中山間地域の振興につなげていきたいというふうに考えております。地域での説明会などの機会を捉えて、この6次化の取り組みについて、制度の説明等に努めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

国・県の各種の支援策なんですけども、実際、糸魚川市で手を挙げて、活用している事業、どれぐらいあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

これまで平成25年にS Kフロンティアのワサビの生産・加工販売事業に対する国庫補助事業、それから、平成26年に県の単独事業として、あぐ里能生さんが煎餅の加工販売に対して補助を受けておるところであります。収益の拡大だとか、雇用の増加につながっているものというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

補助事業を受けている方が少ないような気がするんですが、手を挙げている方が少ないのか、審査が厳しいのか。進め方について、平成23年の私の一般質問の際には、市はビジネスマッチングの機会創出などコーディネーター役を期待されている役割なんだと。それから窓口機能と推進役を担ってまいりたいというふうに答えておったんですが、この今パイプ役と窓口機能推進役、実際にどうなんですか、果たされているというふうに自負できますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

市としましては、農林水産業、それと商工業との異業種の企業、団体の連携のほか、今後も研修会などを通じて6次産業化の啓発に努めていきたいというふうに考えております。この6次化に取り組もうとする方については、内容というのは決して一律でないものですから、やはりオーダーメイド的な対応というのが求められます。そんなことからやりたい、6次化に取り組みたいという方と話をよく伺いする中で丁寧な相談・対応に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、産学官の取り組みですよね。海洋高校関係のさまざまな取り組みに関しましては、多方面から高い評価をいただいておりますので、大変喜んでおるわけですが、この延長線上、さらに新たな仕掛け、今後、期待もしておるんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

海洋高校との産学官連携事業につきましては、学校で学ぶ理論と企業で学ぶ実践を結びつけて、糸魚川版のデュアルシステムという、こういうシステムによって人材育成に取り組んできたものであります。今後につきましては、海洋高校との産学官連携事業を主体に市内全ての高校、それから産業界等との連携強化に取り組みながら社会から求められる人材育成、それから産業振興に取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、平成30年度の産学官の連携推進事業でありますけども、とりわけ新設されました産学官推進企画幹の活動内容、これは建設産業常任委員会で聞かせてもらったわけですが、従来の動きから見て、かなり踏み込んだ部分もあるわけですが、その点では非常に期待をしているわけですが、この一連の取り組みを見ますと平成30年度で完結するようなものではないといえますか、もっともっと進めなきゃならないというようなものも多いんですが、このそれぞれの目標年次というのは、どこにおいてるのか。企画幹からは、当面の企画の基礎を固めていただくのがミッションなのか、その辺をお伺いしたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

産学官推進企画幹については、3つの重要な役割をお願いしております。1つが産学官連携による地域経済の活性化、それから高等教育機関誘致の可能性調査及び検討、もう一つが子ども一貫教育におけるキャリア教育、これを主な任務として任用させていただいたところであります。

これらの取り組みにつきましては、何年にどこまでというような具体的な目標年次については、今ここでお示しすることできませんけども、これまでの取り組みを土台にしながら、さらなる展開、それから新たな分野への挑戦に取り組んでいただきたいと、取り組んでいくということにさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

市長は、その辺はどのように受けとめていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ただいま池田課長が申し上げたとおりな今進め方なんでございますが、これを進めていく上におきまして、具現化していくような形になれば、当然そういう具体的な計画になってまいらと思いますし、まだ要するにそういった探りの部分もあるわけございまして、1年になるのか2年になるのか、そういう中でその辺を固めていきたいと思っておりますし、本当に先ほどの話にありましたように国の動きが非常に早目に出てきたということは、我々にいたしましても非常に好都合でもあるわけでございます。そういった部分については具体的にになっていく可能性があらうかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今おっしゃるようこの後、大きな事業等にも取り組みたいという姿勢があるわけですので、ぜひ期待いたしております。

次に、5点目の情報発信の手法と課題についてでございます。

いまだに都市圏と地域の情報格差による地域事業のマーケティングの課題も大きなボトルネックになってるといふふうに指摘をされてるところがあるんですが、中身がよくても瓶の口のごとく、つかえて出てこないというような、やゆのされ方をしてるんですけども、そうであればどんな方法を使っても解消しなければならぬわけなんですけども、糸魚川市ではそのようなことはございせんか。地域資源でも観光でもどちらでも結構です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

非常に情報化社会ということもございまして情報が至るところにあふれてる状況の中で、糸魚川市というものを見せていくためには、それ相当のことをしていかなきゃいけないと思っております。ただ単にホームページに載せるだけでは埋もれてしまいますので、何かとがったものといいますか、よくちまたで自虐的な広報等が行われてるケースもございまして、それがいいとは思いませんけども、それにかわるような何か見えるものを打ち出していかなければいけないというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長のお話にもありましたけども、先般、新潟市の広報戦略アドバイザーの北村氏、これは新潟日報でちょっと書かれていたんですが、自治体の広報は個性が発揮されない金太郎飴的だったり、世界に理解されないガラパゴス的だったりするプロモーションが多い、こういうふうに言ってるんですね。この地域資源のPRに限って言えば、糸魚川市の情報発信の現状、これどうですか。今、課長がおっしゃったように少しとがったような自虐的なことも今注目されるには必要なことかなというようなどころもあったんですが、何か本当に具体的に考えてるところがあったらお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、具体的なものは持ち合わせておりませんが、今、シティプロモーションの取り組みの中でも含めまして、全庁的に検討して進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

1点だけ具体的なことをお聞きしたいんですけども、海と山の魅力アップ推進計画です。これ両方とも成果を目指してどういう情報を発信するかということ、書かれているところを見ますとキャッチフレーズをまず考案したいんだというふうには書かれているんですが、このキャッチフレーズの考案の仕方、どんな手法で作成しようとしているか、また、作成されたのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、海と山の魅力アップにつきましては、先ほども少し申し上げましたが、海につきましては、ただ単に海水浴とかだけではなくて、ヒスイ探しなどの新たな魅力を合わせてPRしていくということ。また、山につきましては、特に最近、登山客の人口がふえておりますので、山により親しみを持っていただくようにタレントを使っての動画を作製して、PRしていくなどしております。また、山と海から生まれる食につきましても、DC、デスティネーションキャンペーンのテーマでもあります日本海ガストロノミーということも踏まえまして、PRをしていくということが今考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

先ほどの新潟市のアドバイザーの北村氏は、組織が一丸となって体系的に、そして持続的に展開してほしい。成果を意識する大胆で意表を突く戦略的な広報であってほしいというふうなことで、かなり踏み込んだやっぱり広報が必要になってるだろうというふうなことです。

今回、地域資源に関していろんな観点から質問をさせていただきました。この地域資源を使って活性化につなぐポイントというのは、いろいろあると思うんですけども、まず、地域の人が地域のことや地域の魅力を知らない、そして感じていない、そこに基本的な問題があるような気がいたしましたし、また、みずからの強み・弱み、これを客観的に把握しておくことも非常に大事だというふうなことを感じております。

以上で、きょうの質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

再開を2時40分といたします。

〈午後2時30分 休憩〉

〈午後2時40分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

今までの本日の質問とダブるところがあるかもしれませんが、通告書に基づいて1回目の質問をさせていただきます。

1、近年頻発する異常気象対策について。

(1) 水田の渇水対策について。

① 糸魚川市渇水対策事業の利用状況について伺います。

② 県の対策事業では、ポンプの購入に対しても補助云々とありますが、市は補助対象としていない。この点について伺います。

③ 日照りが続いた後の降雨によって、ため池も水田も崩壊・崩落の危険性が高まったと思えるが、農地維持の対策について伺います。

(2) 市の地球温暖化対策について。

① 市の温室効果ガス削減目標は、平成17年度から15年間で15%削減となっています